

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

令和5年4月に全国調査の標準化得点国語100, 数学105以上、県学力調査で県の標準化得点で51以上になる。

3. 指標にむけての取組

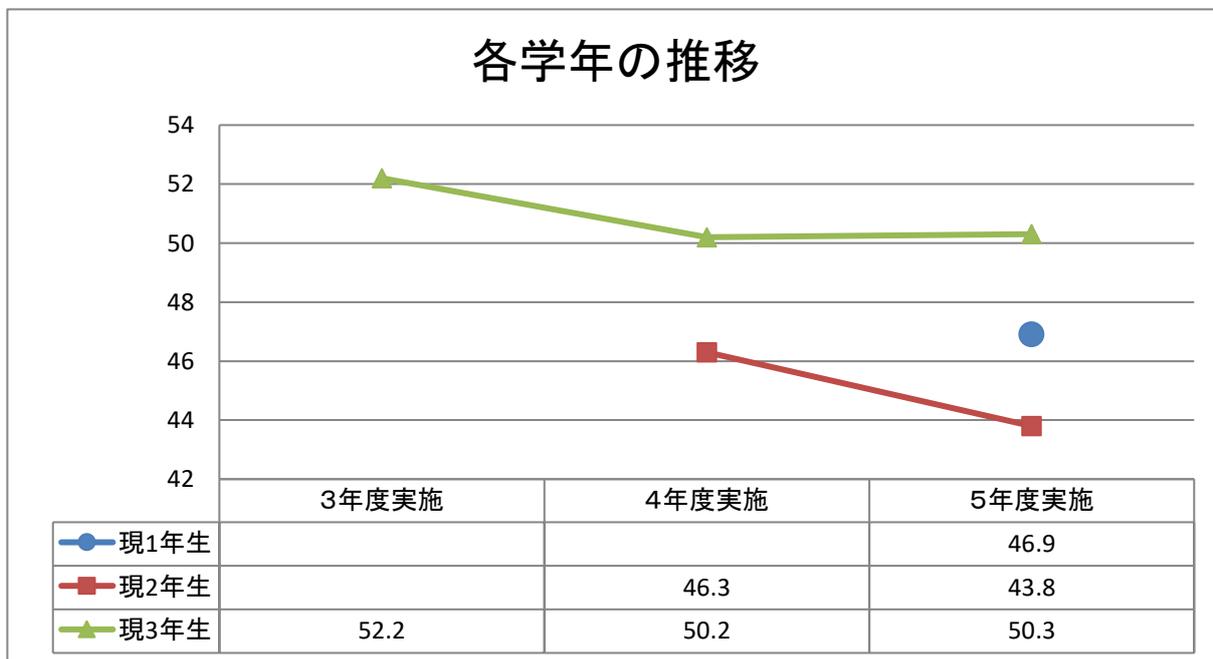
学力向上プランに基づいて、主体的に課題を追求し、根拠をもとにして思考・判断し、考えや意見を表現できる力を身に付けた生徒を育成するために、学習専門委員による学習コンクール(生徒会・鍛ほめ)、放課後補充学習、習熟度別の学習を含む嘉穂中ステップアップタイム(KST)、数学科での習熟度別少人数学習に取り組んだ。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度	4年度	5年度
本校(A)	51.6	50.4	48.5	47.4	47.0
嘉麻市(B)	48.8	48.6	47.1	46	45.5
(A) - (B)	2.8	1.8	1.4	1.4	1.1
標準偏差値との差 (A) - (50)	1.6	0.4	-1.5	-2.6	-3

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・2年生ではKSTの時間に数学の習熟度別学習を行い、生徒の課題に応じた内容を選択し、学習の方法や内容についての指導ができたが、まだ数学の成績の上昇には至っていない。取組の評価と改善を小さいサイクルで行い、成績の上昇につなげていく必要がある。
- ・放課後補充学習では、基礎・基本の徹底を行い、家庭学習の定着の一助となった。
- ・学習コンクールにおいては、学級で目標達成をしようと協力する姿や意欲を高める姿が見られた。

6. 各学校における今後の取組

- ・学力向上委員会や各教科部会で各種テストの結果に対しての分析を行い、今後の取組方法を決定していく。その取組を通じて生徒に知識・技能を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成していく。
- ・英語や数学でのITや実態に応じた習熟度別の学習支援を実施する。
- ・昨年度と同様に、定期テスト前の学習コンクール・KST(嘉穂中学校ステップアップタイム)・家庭学習の充実に向けた支援と指導・英検の校内実施・朝と帰りのHR学習を行う。
- ・教育相談を学期に1回実施し、生徒の困り感や悩みに対しての支援を行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、Aドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。